

乳幼児や小学生と共に海外で生活されるご家族へ

母語の大切さをご存知ですか？

— 海外での言葉の育て方 —



「母語」とは何でしょうか。

それは、お子さんが生まれて初めて出会い、親から受け継いで人間形成の基盤となる言葉です。

親の一番得意な言葉が日本語であれば、地球上のどこに住むことになっても、まず、しっかりと日本語を身につけさせてあげることが必要です。

公益財団法人 海外子女教育振興財団
Japan Overseas Educational Services (JOES)

母語の順当な発達は、健全な人格形成の基礎です。

2歳から4歳ぐらいまでの間に、言葉は急激に発達します。この時期に、親が一番得意な言語で十分に言葉を伝えることによって、母語を使う力を身につけると同時に、言葉を使う基礎となる力が育ちます。家庭で母語を使って十分なコミュニケーションができれば、人格形成に必要なものを吸収していくことができます。

この大切な時期に母語（日本語）に接する機会が十分でないと、人間としての発達に差し支える恐れがあります。また、言葉の基礎がしっかりできないので、二つ目の言語（英語など）も伸びていきません。

Q 生まれたばかりの子どもを連れていきます。母語の発達についてどんなことに気をつければよいでしょうか。

A 家族との時間が大半ですから、日本国内にいるときとあまり変わりません。

- ・たくさん日本語で話しかけましょう。
- ・お話をしたり、読み聞かせをしたりして、いろいろな日本語を聞かせましょう。
- ・大人やきょうだいの会話をたくさん聞かせましょう。

Q 幼稚園の選択については、どのように考えればよいでしょうか。

A 地域の現状やお子さんの状況を踏まえ、両親でよく話し合って判断しましょう。

- ・日本語による幼稚園は、母語を育てるにはよい環境です。
- ・幼稚園が日本語でない場合は、家庭での日本語環境が特に大切です。
- ・幼稚園では英語、家庭では日本語というように、言語を切り替えるのがよい状態です。二つの言葉が混じるのはよくありません。

Q 幼稚園で話していた英語は、帰国するとどうなりますか。

A 小さい子の言語は生活そのものです。英語の生活がなくなれば、英語を話さなくなると当然ですが、音の記憶などは残ります。何よりも、幼稚園で英語を使って楽しく生活していたという事実が、大人として使う英語を学ぶときにはモチベーションになるでしょう。無理をせず、英語に親しむ機会を作ってあげるとよいでしょう。

Q

幼稚園や学校が日本語でない場合（例えば英語）は、どんなことが大切ですか。

A

二つ目の言葉を身につけるためにも、母語をしっかり伸ばすことが必要です。家庭内に、しっかりした日本語の環境を作りましょう。

◎初めのうちは、幼稚園や学校で言葉をよく理解できないため大きなストレスがあります。

- ・家では日本語でしっかり話を聞き、話しかけてあげましょう。
- ・補習授業校やプレイグループなど、日本語で楽しく過ごせる場所を用意しましょう。

◎英語に慣れてくると、日本語が「いらぬ言葉」にならないよう、日本語が必要な環境を意図的に作る必要があります。

- ・家庭では「日本語を使うのが当然」という雰囲気を作りましょう。
- ・意識して「正しい日本語」を使うように心がけましょう。
- ・成長段階に応じた内容の会話をするように心がけましょう。
- ・時間を決めて、読み書きなど「日本語を勉強する」機会を作りましょう。
- ・補習授業校など、日本語で生活・学習する場を考えましょう。

◎こんな時の対応は

①日本語に英語が混じる。

- ◆日本語の表現が出てこないと英語を代用することがあります。そんな時は、日本語を聞かせるチャンスです。

「ママ、helpしてあげようか」

「あら、手伝ってくれるのね。ありがとう。」

②外国語の感覚で日本語を使う。

- ◆日本語の正しい使い方を教えましょう。

「このすいか、寒くておいしい。」

「ほんとにおいしいね。すいかは『つめたい』と言うんだよ。冬は『寒い』だね。」

③きょうだいの会話が英語になる。

- ◆ある程度は仕方がないかもしれませんが、可能な時は、日本語を聞かせましょう。上の子には、妹や弟のために日本語を使うように頼みましょう。

「Can I use your bike?」「OK.」

「自転車に乗るの。気をつけてね。」

④英語で話す方が楽に感じるようになる。

- ◆「家では日本語」を意識させ、努力をほめましょう。

「ママ、Will you pick me up at gym?」

「え？」

「えっと、たいいくかんに、むかえにきて。」

「はい、たいいくかんに迎えに行きます。」

上手に言えたね。」



日本語を守り育てる方法について知っておきましょう。

4歳から5歳頃にかけて日本語の基礎ができてきます。日本国内であれば、いつでも多くの日本語に触れることができ、日本語を土台にして思考力や表現力などを伸ばす環境があります。しかしながら海外では、子どもの日本語力を保持、育成していくために保護者の工夫や努力が欠かせません。

Q

赴任先に日系の幼稚園や日本人学校がありません。どのようにして日本語に触れる機会を作ればよいのでしょうか？

A

海外で日本語に触れることができる一番の場所は家庭です。家庭でできるだけ多くの日本語を使うように心がけましょう。宿題など現地校の学習に必要なことは仕方ありませんが、会話や読書などお子さんが耳や目から日本語に触れる機会を増やすこと、また多くの体験を通してその場にあった日本語を学ばせてあげることが大切です。

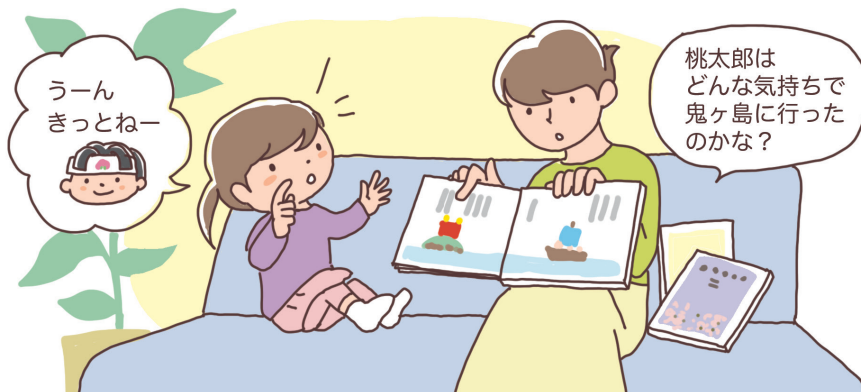
①日本語で丁寧に語りかけ、ことばの間違いは根気よく正す。

◆単語だけの会話を避けましょう。



②絵本の読み聞かせ、読書・音読の機会をふやす。

◆絵本の読み聞かせの後にお子さんが考えるような問いかけをしましょう。



③親子の会話を多く持つ。オンラインを利用して日本の方との会話の機会を設ける。

◆旅行の計画など、お子さんも交えて相談しましょう。



④補習授業校や通信教育を活用する。

◆補習授業校は日本の学習補充だけでなく、友達同士の触れ合いから生きたことばの習得に役立ちます。

⑤インターネットなどを利用して日本の番組を視聴する。



Q

日系の幼稚園や日本人学校に行く場合は母語の心配はありますか？

A

幼稚園や学校では日本語を使う機会がありますが、日本にいる場合と比べて日本語を使う場面や会話をする相手が限られてきます。敬語や日本語独特の単語・表現などの語彙の広がりには自然には期待できません。やはり家庭での日本語環境作りなど配慮が必要です。一時帰国を利用して話す機会を設けるなども良いでしょう。



「学習言語」について知っておきましょう。

母語は、ふだんの生活に重要な役割を果たすことは言うまでもありませんが、学習内容について理解力、思考力をつけること、自我の形成などにも重要な役割を果たしています。特に学校の授業に必要な日本語（学習言語）は、日常会話で使われている日本語より高度な内容になるので、注意が必要です。

Q 「学習言語」と言われてもピンと来ないのですが……

A 学校で学習する教科書やテストの設問に出てくる用語や、担任の先生が授業の中で用いる言葉や表現とお考えください。たとえば、学習言語の習得ができていないと、小学校中学年になれば普通に出てくる、『農業や水産業、工業、商業など、社会をささえるさまざまな仕事のことを産業といいます。』などという、普段の生活ではあまり使われない言葉にとまどってしまいます。

こうした言葉は家庭や日常生活の中では、あまり使う場面がありませんので意図的に学んでいく必要があります。海外で日本語による学習をせずに帰国した場合は、学校の授業の理解が難しくなり、教科書の学習がままならないなどの問題が生じることがあります。

当財団に寄せられる教育相談の中にも、「学習言語」の理解が不十分なことにより、「帰国後、学校にうまく適応できない」という事例が見られます。

また、小学校中学年の国語からは、文章を読んで書き手や主人公の心情を理解することが求められます。この場合、「学習言語」を理解していることに加えて、いくつかの抽象的な表現を合わせて読み、書き手や主人公のその場での気持ちを理解する必要があります。

海外生活が長くなると、『楽しい』『うれしい』『くやしい』『悲しい』など、はっきりした感情表現は読み取れても、複雑な心情を理解する際は、表面的な読み取りになってしまうことがあります。



Q

「学習言語」の習得について、家庭ではどのような配慮をすればよいのでしょうか。

A

たとえば、日本の教科書を繰り返し音読させたり、通信教育の学習や補習授業校の宿題に親子で取り組んだりすると共に、お子さんが教科書の内容やテストの設問を理解できない場合はその言葉の意味を一緒に考えてあげましょう。

その他、日本の理科・社会科を楽しく学べる本や参考書（歴史まんが、学習図鑑など）を揃えるなどして、日本の学習に興味をもてる環境を家庭内に作り、「学習言語」に接する機会を増やすことが有効です。

高学年になるにつれて、学習内容が複雑になります。保護者が直接手助けをするのが難しくなったときには、必要に応じて、塾、あるいはチューター（家庭教師）の力を借りることも考えられます。

漢字の学習もその意味や成り立ちを家族で一緒に考えて徐々に使える文字を増やすようにしていきましょう。



最後に

母語の発達に十分気を配っているつもりでも、お子さんは、現地の学校の宿題に追われたり、日々のスポーツ活動等に思いのほか時間を取られたりして、日本語力の伸びが、日本国内のお子さんより遅れがちになることがあります。時間を掛けて、学年相応の学習言語を身に付ける努力を家族で心掛けましょう。

海外子女教育振興財団（JOES）各種サービスのご案内

申し込み方法等、詳しくはWebで！
<https://www.joes.or.jp>



教育相談

現地での学校選択、手続きや教育制度、高学年のお子さんの帯同、帰国後の受入れなど、最新情報をもとに、海外子女・帰国子女専門のアドバイザーが具体的な相談に応じています。

- ・相談日／東京・大阪：月～金曜日 月1回程度 土曜日（オンライン）
- ・オンライン相談（Zoom、Teams）を中心に、メール相談も可能（事前予約制）

渡航前配偶者講座（東京）

海外生活をより楽しく充実したものにするための駐在員配偶者のための講座。心と情報の整理を通して学ぶ「海外生活準備コース」と、日常生活に即した「英会話コース」と「サバイバル中国語」があります。

渡航前子ども英語教室（東京）

年長児・小学生のためのクラスで、最初の1か月を乗り切るためのサバイバル・イングリッシュやPHONICS、学校で頻繁に使う単語の学習等を通して、英語に慣れることを目的にしています。

海外子女のための通信教育

母語が急激に発達する幼児期に、家庭で日本語の土台をしっかりと築くのに役立つ「幼児コース」として、絵本の定期配本（ふろく付き）サービスを行っています。また、現地校等で学んでいる小・中学生には、帰国後に日本の学校にスムーズに適応することを目的とした「小・中学生コース」があります。

出版物 ～未就学児・小学校低学年のお子さんをもつご家族におすすめ！～

新・海外子女教育マニュアル

これが1冊あれば安心！出国前準備から帰国後受け入れまで、お子さんの教育に関する総合的なアドバイスをまとめた書籍。

ぬりえ さばいばるいんぐりっしゅ はんかち さばいばるいんぐりっしゅ

絵を示すことによって最低限の言いたいことを伝えられるようになっている「ぬりえ」「はんかち」。海外に行く小さなお子さんの「お守り」として持たせてあげてください。

母語を育てるといふこと

機関誌『海外子女教育』で掲載された「母語」に関する特集記事や、家庭でできる「日本語を育てる遊び」をまとめた書籍。海外での子育てにおけるポイントが満載。子どもを海外で過ごしたご家族の体験談も紹介。

2022年12月発行

公益財団法人 海外子女教育振興財団

〒105-0002 東京都港区愛宕1-3-4 愛宕東洋ビル6階

TEL 03-4330-1341 E-mail service@joes.or.jp URL <https://www.joes.or.jp>